

# 21年2月世界市場サマリー

株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ  
代表 伊藤 武

## 02月末主要指標（前月末比）

ダウ工業平均	30,932.37 (+3.2%)
S&P 500 指数	3,811.15 (+2.6%)
NASDAQ指数	13,192.35 (+0.9%)
日経平均	28,966.01 (+3.1%)
米ドル対円	106.84 (104.71)
ポンド対円	148.27 (143.44)
ユーロ対円	128.44 (126.96)
金	1,733.00 (-6.9%)

バイデン大統領就任後は矢継ぎ早に新政策が発表されています。注目のトランプ前大統領弾劾裁判は予想通り無罪判定となりましたが、共和党上院議員7名が有罪評決とし、結果として民主党上院議員全員50票と7票が加わり、57票対43票の票決でした。有罪評決には2/3過半数を必要とします。前院内総務マコネル議員は憲法上前大統領の訴追は出来ないとの観点から無罪票を投じましたが、議事堂の襲撃を扇動した張本人と鋭くトランプ氏を批判しました。その後トランプ氏は保守派議員大会で2024年に再出馬を匂わせ、岩盤層の根強い支持を保持しています。共和党内の今後の分裂を注目すべきでしょう。しかし、政治は完全にバイデン大統領指導の下動いています。コロナ対策のワクチン接種と景気対策を最優先課題として邁進しています。ワクチンはジョンソンアンドジョンソンも承認を得、ライバルメルクとの協調で、今年前半にも米国成人全員が接種を受ける予想となりました。昨年末に通過した9000億ドルコロナ対策に対し更なる1.9兆ドルの救済法案は既に下院で可決され、時間給15ドルの最低賃金案は否決となりそうですが、早急に成立される見通しとなりました。ある程度のインフレを容認するほぼ無限大の金融緩和策に伴い企業収益の急回復も期待されています。楽観的な相場の唯一の懸念は金利急騰です。事実、米10年国債は瞬間的に1.6%迄上昇し、市場も急落を演じました。しかし、インフレを想定する内容ではありません。個人消費も堅調に回復し、製造業は順調となり、失業率も急低下が期待されています。民主党の公約は環境対策とイン

フラ投資で、今後更なる3兆ドル規模の政策が期待されます。S&P500収益見通しは一株当たり175ドルがコンセンサスとなり、株価は割高感を生じていますが、強気相場での勢いは制御できない状況です。世界的金融緩和は米FRBと連動し、日欧でもアメリカに遅行はしてもシンクロされています。日欧の景気回復はアメリカとの比較上相当遅れをとる見通しです。それにより金利格差が生じドル高円安傾向に進行しています。久々に海外投資家の日本株買いが高まっています。どこを見回しても、強气的見解が支配しています。いかにバブルだと叫んでも音楽が止まるまで投資家は踊り続ける様相です。それに対し現在市場で目だって見劣りしているのが金です。金利上昇基調が懸念される状況下、尚且つリスクオン市場での帰結でしょう。去年はそれ相応のパフォーマンスを維持した金は当面影を潜めるかもしれません。前回も指摘しましたが、市場の変動が高まっています。右肩上がりの相場展開が続くとしても、押し目を狙うのが賢明と考えます。

本資料は、株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ（以下「当社」という）が情報の提供のみを目的として作成したものです。当社が提供する情報は十分信頼に足るものと信じておりますが、それを保証するものではありません。ここに掲げる過去の実績は必ずしも将来の動向を示唆するものでなく、実際の収益を確約するものではありません。記載された見解等の内容は全て作成時点でのものであり、今後予告なく変更されることがあります。この資料及びここに掲載された情報等の権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部若しくは一部を複製し、又その他の方法で配布することはご遠慮ください。